

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P063011 |
| 講義名 | 運動療法概論Ⅱ |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学 |
| 科目ナンバリング | P2-0403 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 谷埜 予士次 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

谷埜予士次〔理学療法士〕

目的

関節可動域の維持・拡大、および筋力維持・強化のための運動療法の考え方を理解する。

到達目標

解剖学、生理学、および運動学で学んだ知識がどのように運動療法に役立つのかを理解することを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 運動療法について（広義、狭義）
2. 触診実技①
3. 触診実技②
4. 触診実技③
5. 関節可動域拡大のための運動療法
6. ・他動運動実技①
7. ・他動運動実技②
8. ・他動運動実技③
9. ・他動運動実技④
10. 筋力強化のための運動療法
11. ・筋力強化練習①
12. ・筋力強化練習②
13. ・筋力強化練習③
14. 復習①
15. 復習②

成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
特に「人体の構造」・「人体の機能」・「基礎運動学」の復習をしておいてください。
また、具体的な予習・復習範囲は指示しますので必ず自己学習すること。

テキスト

「運動器疾患の評価と理学療法評価」(アイペック)

参考資料

「基礎運動学 第6版補訂」(医歯薬出版)

オフィスアワー

月曜日 12:15~13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室
tanino@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P064011 |
| 講義名 | 運動療法概論実習 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 実習 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学 |
| 科目ナンバリング | P2-0404 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 谷埜 予士次 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

谷埜予士次〔理学療法士〕

目的

「運動療法概論Ⅰ・Ⅱ」で学習した運動療法について、学生同士で実習して効果を体感する。

到達目標

手技を習得するというよりも、紹介する運動療法が解剖学、生理学、運動学的知識に基づいているということを再確認する。また最近の運動療法についての文献抄読を行い、それをもとにディスカッションして理解を深めることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 上肢運動器疾患の運動療法①
2. 上肢運動器疾患の運動療法②
3. 上肢運動器疾患の運動療法③
4. 上肢運動器疾患の運動療法④
5. 上肢運動器疾患の運動療法⑤
6. 下肢運動器疾患の運動療法①
7. 下肢運動器疾患の運動療法②
8. 下肢運動器疾患の運動療法③
9. 下肢運動器疾患の運動療法④
10. 下肢運動器疾患の運動療法⑤
11. 下肢運動器疾患の運動療法⑥
12. 頸部・体幹の運動器疾患に対する運動療法①
13. 頸部・体幹の運動器疾患に対する運動療法②
14. 頸部・体幹の運動器疾患に対する運動療法③
15. 上肢運動器疾患の運動療法に対する文献抄読会①
16. 上肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会②
17. 上肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会③
18. 下肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会①
19. 下肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会②
20. 下肢運動器疾患の運動療法に関する文献抄読会③
21. 頸部・体幹の運動療法に関する文献抄読会①
22. 頸部・体幹の運動療法に関する文献抄読会②

23. まとめ

成績の評価

定期試験80%、文献抄読会のプレゼンテーション20%にて総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

「人体の構造I」・「人体の機能I」の復習をしておくこと。

また、講義前・後で指定する教科書のページをよく読んでおくこと。自己学習の成果をみるために復習テストも実施します。

テキスト

「運動器疾患の評価と理学療法」（アイペック）
その他、適宜資料を配布する。

参考資料

「理学療法ハンドブック」（協同医書）

オフィスアワー

月曜日 12:15～13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室
tanino@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------|
| 講義コード | 2P067023 |
| 講義名 | 英語表現法Ⅲ |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1304 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科 2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 仁志 | 指定なし |
| 教員 | 東藤 真理奈 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

吉田 仁志(前期)

山崎 航(理学療法士)、東藤 真理奈(理学療法士) (後期)

目的

- ・ 様々な医療従事者が共通して知っていなければならない医療英語を身につけること。
- ・ 医療現場で少しでも英語が使えるようになること。
- ・ 理学療法学についての英文を読んで、専門的応用力を身につけること。 (前期)
- ・ 論文に書かれている医学用語を理解できるようになること。
- ・ 海外の理学療法関連の研究論文を読み最新の知識を得ること。 (後期)

到達目標

- ・ 医療に関する一般的な事柄を英語で理解できる。
- ・ 各種国家資格の医療従事者の業務内容を英語で理解できる。(前期)
- ・ 理学療法に関する一般的な英語表現を理解できる。
- ・ 最新の理学療法関連の知識を得るために研究論文を読解できる。(後期)

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

(前期 吉田仁志担当分。教科書購入不要)

1. 臨床検査技師の仕事(1)
2. 臨床検査技師の仕事(2)
3. 臨床工学技士の仕事(1)
4. 臨床工学技士の仕事(2)
5. 診療放射線技師の仕事(1)
6. 診療放射線技師の仕事(2)
7. 理学療法士の仕事(1)
8. 理学療法士の仕事(2)
9. 作業療法士の仕事(1)
10. 作業療法士の仕事(2)
11. 言語聴覚士の仕事(1)
12. 言語聴覚士の仕事(2)

13. 視覚機能療法
14. チーム医療の必要性
15. まとめ

(後期 山崎・東藤担当分。教科書購入不要)

1. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読1(東藤)
2. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読2(東藤)
3. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読3(東藤)
4. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読4(東藤)
5. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読5(東藤)
6. 神経疾患理学療法関連論文の英文抄読6(東藤)
7. まとめ1(東藤)
8. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読1(山崎)
9. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読2(山崎)
10. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読3(山崎)
11. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読4(山崎)
12. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読5(山崎)
13. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読6(山崎)
14. 運動器疾患理学療法関連論文の英文抄読7(山崎)
15. まとめ2(山崎)

成績の評価

定期試験 70%、小テストおよび課題提出 30% で評価する。(前期)

定期試験にて評価する(後期)

※本科目は通年科目であるため、最終的な成績は前期成績50%、後期成績50%とし評価を行う。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点済みの定期試験答案を開示する。(前期・後期)

自己学習

授業 1 コマにつき 0.5 コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。(前期・後期)

テキスト

講義内にて資料を配布する。(前期・後期)

オフィスアワー

月曜日以外の昼休み時間(12:10~13:10)(吉田仁志)

水曜日(12:10~13:10)(山崎 航)

水曜日(12:30~13:00)(東藤 真理奈)

研究室・授業用E-mail

5号館7階C702研究室(吉田 仁志)

4号館5階D513第一共同研究室(山崎 航)

w.yamazaki@kansai.ac.jp

4号館5階D513第一共同研究室(東藤 真理奈) todo@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P069013 |
| 講義名 | 衛生・公衆衛生学Ⅰ |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 衛生・公衆衛生学 |
| 科目ナンバリング | P2-0202 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 宮本 邦彦 | 指定なし |

目的

衛生・公衆衛生学は、人間集団の健康を現実の生活環境のなかで扱う学問であり、その内容は、社会の組織的な努力を通して、疾病を予防し、寿命を延長し、身体的・精神的健康増進をはかり、生活の質を高く保つ実践活動とそのための知識や技術を高めることである。ここでは衛生的側面と公衆衛生的側面から健康をとらえ健康増進を図るための基本的な方法と疾病の成立条件や予防法を学ぶ。

到達目標

衛生・公衆衛生学の理論および疫学の方法論を理解し、実際に利用できるようになること。また、人々の健康に影響を及ぼす様々な環境因子や主な疾病の予防法を理解し、実践できる技能を身に着けること。
また、疾病対策として何が必要かを考えられるよになること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 衛生・公衆衛生学の意義
2. 疫学1 疫学とは
3. 疫学2 コホート研究と症例対照研究
4. 疾病予防と健康管理疾病予防の段階
5. 疾病予防と健康管理健康増進
6. 生物的環境要因-微生物を中心に-
7. 中間試験
8. 主な疾病の予防 感染症の予防
9. 主な疾病の予防 国内の感染症
10. 主な疾病の予防 循環器系の疾患、糖尿病
11. 主な疾病の予防 脂質異常症、痛風
12. 主な疾病の予防 がんの予防、腎疾患、アレルギー
13. 主な疾病の予防 発達障害、認知症、フレイル、廃用症候群
14. 環境保健
15. まとめ

成績の評価

定期試験の成績 (45%)、中間試験成績 (45%)、提出物 (10%)を合わせて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を提示する。

自己学習

教科書をよく読んで、授業1コマにつき45分相当の予習と復習をすること。

履修上の注意

理解度を見るため中間試験を行う。配布資料は重要な項目であり試験題問に含まれるので整理して保管しておくこと。

テキスト

シンプル衛生公衆衛生学 2019 (南江堂) 監修：鈴木庄亮 編集：小山洋、辻一郎

参考資料

リハビリテーション (ハンドブック) 稲川利光 (Gakken)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P070013 |
| 講義名 | 衛生・公衆衛生学Ⅱ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0203 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 松本 健治 | 指定なし |

目的

健康問題は感染症から生活習慣病と大きく変貌したが、わが国は世界最長寿国となった。このような健康をめぐる今日的課題の背景にある地域社会における各種の疫学的要因について、正確な知識が身に付くことを目的とする。

到達目標

公衆衛生学の考え方や疫学の方法論を体系的に理解することができ、医療に関する専門職としての意識をもち、将来の地域・職業生活に活かすことを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. ライフスタイルと健康
2. 疫学
3. 保健統計
4. 疾病予防と健康管理
5. 主な疾病の予防
6. 母子保健
7. 学校保健
8. 産業保健 (1)
9. 産業保健 (2)
10. 環境保健 (1)
11. 環境保健 (2)
12. 老人保健、地域保健
13. 精神保健
14. 国際保健、保健医療福祉の制度と法規
15. まとめ、これからの公衆衛生

成績の評価

筆記試験 (80%) と授業への取り組み度 (20%) で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

最終の授業時間に提出された課題とミニレポート (教員のコメント入り) を返却する。試験終了後 (試験期間終了後) に解答を配布する。

自己学習

学習内容の理解度を深めるため、講義の復習と1週間前に配布した資料と教科書で予習することが肝要。授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「シンプル公衆衛生学2019」(南江堂)
1週間前に講義内容の抄録と関連資料を配付します。

参考資料

「国民衛生の動向2019/2020」(厚生労働統計協会)

オフィスアワー

開講時限の前後休憩時間

研究室・授業用E-mail

講師控室

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P074012 |
| 講義名 | 加齢医学（老年医学） |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0215 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 紀平 為子 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

紀平為子

目的

超高齢社会である日本において、年齢を重ねても健康で生き生きとした生活を継続することは人々の願いであり、医療の重要課題である。とりわけ認知症や脳血管障害、パーキンソン病などの神経変性疾患、および骨粗鬆症、転倒などへの取り組みは介護予防のためにも極めて重要である。さらに健康長寿を達成する上で高血圧症、糖尿病、脂質代謝異常などの生活習慣病への対策と予防が求められている。本科目では、加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入や指導が行える医療者の養成を目的とする。

到達目標

加齢に伴う生理的、身体的、精神的変化ならびに高齢者特有の疾患を理解し、高齢者に対して健康維持・増進と日常生活のQOL向上をはかるため適切な介入・指導が行える。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 高齢社会と加齢医学、加齢の機序
2. 生理的老化と病的老化
3. 高齢者の病態と疾患の一般的特徴
4. 認知症をきたす疾患
5. 意識障害・せん妄・失神
6. 歩行障害と運動生理
7. 嚥下障害と誤嚥
8. 高齢者に多い神経疾患 1
9. 高齢者に多い神経疾患 2
10. 高齢者の脳血管障害
11. 高齢者の栄養と消化器疾患
12. 高齢者に多い呼吸器疾患
13. 高齢者に多い感染症・免疫・膠原病
14. 高齢者に多い腎・泌尿器系疾患
15. 高齢者の生活機能障害の評価と介護・医療

成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験後模範解答を開示する。

自己学習

加齢と高齢社会について多方面から情報収集し、情報の整理と理解をすすめ、問題意識をもって講義に臨むこと。授業1コマにつき45分相当の予習と復習を行うこと

テキスト

特に指定しない。

参考資料

「老年医学テキスト 社団法人日本老年医学会 編」 (MEDICAL VIEW)

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:00

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4階408研究室 tkihira815@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P078022 |
| 講義名 | 外科各論 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0210 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 喜馬 通博 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

喜馬 通博・熊野 公束・岩橋 秀明

目的

臨床の場においてチーム医療を実践する一員として、患者・家族とはもちろん職場同僚や他職種、とりわけ医師、看護師、他技師職等と疾患、病状の現症、回復状況、治療方針、治療のゴールに関して意思の疎通を図り、患者についての医療情報を共有しつつ、自らの役割を理解して技量を発揮できるよう、外科疾患に関する基礎知識を身につけること。

到達目標

日常一般的によく遭遇する疾患について、原因、症状、診断、外科的治療法を解説し、理解を求める。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 脳卒中について
2. 脳神経外科 解剖
3. 脳神経外科 検査
4. 脳神経疾患の主要な兆候 1
5. 脳神経疾患の主要な兆候 2
6. 脳血管障害 1
7. 脳血管障害 2
8. 頭部外傷
9. 脳腫瘍
10. 脳神経外科 手術、その他
11. 頭頸部疾患
12. 甲状腺疾患・副甲状腺の疾患
13. 乳腺、胸壁・胸膜・横隔膜
14. 気管・気管支及び肺
15. 縦隔、心臓①
16. 心臓②
17. 血管
18. 食道・消化器総論
19. 胃及び十二指腸
20. 小腸および結腸

21. 直腸および肛門
22. 肝臓・胆道系および膵臓①
23. 肝臓・胆道系および膵臓②
24. 脾・門脈、副腎、後腹膜
25. ヘルニア、腹壁、臍
26. 急性腹症
27. 外科栄養学
28. 小児外科①
29. 小児外科②、高齢者外科
30. まとめ

成績の評価

定期テスト90%、小テスト10%を総合評価して判断する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

テキストを参考に要点を講義する。必要に応じプリントを配布し、理解しやすくなるよう配慮する。上記は目安であり、内容や順番の一部変更等あります。

テキスト

「NEW外科学 改訂第3版」 （南江堂）

「脳神経疾患ビジュアルブック」 （学研メディカル秀潤社）

参考資料

「標準外科学」 （医学書院）

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P079011 |
| 講義名 | 外科診断学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0209 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 喜馬 通博 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

喜馬 通博

目的

外科系の科目に特有な診断知識、技術について講義する。

到達目標

外科的治療に必要な病態生理や、手術適応を判断する症候、症状、身体診察技術、検査、臨床所見等の一般的知識の取得。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 外科医学の概観とその特殊性、基本的知識
2. 外科的侵襲、出血と止血、輸血
3. ショック
4. 創傷治癒、損傷、皮膚と皮下組織
5. 感染と炎症
6. 免疫
7. 腫瘍
8. 臓器移植、人工臓器とME
9. 水分・電解質、血液/ガス、酸・塩基平衡
10. 外科栄養法
11. 手術患者の術前管理
12. 手術患者の術後管理
13. 老人の特殊性
14. 救急治療
15. 予備

成績の評価

定期テスト、小テスト、授業態度を総合評価して判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「NEW外科学 改訂第3版」 (南江堂)

参考資料

「標準外科学」 (医学書院)

| | |
|----------|-----------------|
| 講義コード | 2P099011 |
| 講義名 | 基礎運動学Ⅱ |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P2-0108 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 谷埜 予士次 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

谷埜予士次〔理学療法士〕

目的

理学療法の目的は、障がいを持つ方々の基本動作能力を改善させることである。したがって、理学療法士は動作を構成する身体運動の仕組みについて理解しておく必要がある。本講義では運動にかかわる主に下肢の骨・関節の構造と機能、筋の作用を解説する。

到達目標

解剖学および生理学で習得した知識から、身体運動を理解できるようにすることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 股関節の運動①
2. 股関節の運動②
3. 股関節の運動③
4. 股関節の運動④
5. 膝関節の運動①
6. 膝関節の運動②
7. 膝関節の運動③
8. 膝関節の運動④
9. 足関節・足部の運動①
10. 足関節・足部の運動②
11. 足関節・足部の運動③
12. 足関節・足部の運動④
13. 足関節・足部の運動⑤
14. まとめ①
15. まとめ②

成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。
特に「人体の構造I」・「人体の機能I」で習ったことを復習しておくこと。

テキスト

「基礎運動学 第6版補訂」(医歯薬出版)

参考資料

「日本人体解剖学 上巻」(南山堂)
「筋骨格系のキネシオロジー 著第3版」(医歯薬出版)
「身体運動学」(メジカルビュー社)

オフィスアワー

月曜日 12:15~13:00

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D723研究室
tanino@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------------|
| 講義コード | 2P100011 |
| 講義名 | 基礎運動学実習 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 実習 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P2-0109 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|--------|------|
| 教員 | ◎ 山崎 航 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

山崎 航(理学療法士)

目的

理学療法の目的は、障がいを持つ方々の基本動作能力を改善させることである。したがって、理学療法士は動作を構成する身体運動の仕組みについて理解しておく必要がある。本講義では主に体幹の運動にかかわる骨・関節の構造と機能、筋の作用を理解し、また、姿勢や動作の分析に必要な運動学と運動力学について理解する。

到達目標

- ・解剖学および生理学で習得した知識から、体幹の運動について理解できるようにすること
- ・理学療法評価で重要な動作分析についての運動学・運動学的な基礎知識を養うこと

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 頸椎の運動①
2. 頸椎の運動②
3. 胸椎と胸郭の運動①
4. 胸椎と胸郭の運動②
5. 腰椎・体幹の運動①
6. 腰椎・体幹の運動②
7. 生体力学の基礎①
8. 生体力学の基礎②
9. 姿勢
10. 姿勢制御①
11. 姿勢制御②
12. 姿勢観察と分析
13. 歩行
14. 歩行の関節運動①
15. 歩行の関節運動②
16. 歩行の運動力学的分析①
17. 歩行の運動力学的分析②
18. 歩行の筋活動①
19. 歩行の筋活動②
20. 異常歩行

21. 基本動作の観察と分析①
22. 基本動作の観察と分析②
23. 基本動作の観察と分析③

成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

「人体の機能Ⅰ」について復習をし、筋や運動についてよく理解しておくこと。また「人体の構造Ⅰ」・「基礎運動学Ⅱ」について復習し、下肢の運動学について理解しておくこと。

テキスト

「基礎運動学 第6版 補訂」(医歯薬出版)

参考資料

「プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版」(医学書院)
「筋骨格系のキネシオロジー 原著第2版」(医歯薬出版)

オフィスアワー

水曜日 12:10~13:10

研究室・授業用E-mail

4号館5階 D513第一共同研究室(山崎航)

w.yamazaki@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P105011 |
| 講義名 | 義肢装具学 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法治療学 |
| 科目ナンバリング | P3-0614 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 鬼形 周恵子 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

鬼形周恵子〔理学療法士〕

目的

障がい者が義肢および装具を使用することは、日常生活を獲得するための手段といえる。理学療法士がリハビリテーションの中で義肢・装具の役割を理解し、適切なアドバイスを行うことが臨床では求められる。そこで基本的な義肢・装具の知識を身につけ、それらを用いた運動療法の理論を学習する。

到達目標

義肢装具の部品や機能、疾患に適した義肢装具などを学習し、理学療法士として適切なアドバイスができるようになる

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 装具学総論 下肢装具の部品と機能
2. 下肢装具の部品と機能 靴型装具
3. 下肢装具のチェックアウト
4. 体幹装具 上肢装具
5. 車椅子 歩行補助具
6. 疾患別装具（脳卒中・整形外科疾患・関節リウマチ・小児疾患）
7. 切断と義肢総論 早期義肢装着法
8. 下肢切断（大腿切断・膝離断）
9. 下肢切断（下腿切断・サイム切断・股離断）
10. 下肢切断の評価
11. 義足装着理学療法と応用動作
12. 義手の分類・機能
13. 上肢切断の評価と治療
14. 義肢装具の支給体系とチームアプローチ
15. 義肢装具まとめ

成績の評価

定期試験にて評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習をおこなうこと

テキスト

「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 義肢学」（中山書店）

「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト 装具学」（中山書店）

オフィスアワー

火曜日 12：15～13：00（鬼形）

4号館5階D513第1共同研究室

研究室・授業用E-mail

4号館5階D513第1共同研究室 onigata@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P124011 |
| 講義名 | 検査測定学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法評価学 |
| 科目ナンバリング | P2-0505 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 文野 住文 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

文野 住文〔理学療法士〕

山崎 航〔理学療法士〕

目的

理学療法評価で用いる検査測定について実技演習を取り入れながら講義する。具体的な検査測定項目は、形態測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、感覚検査、反射検査である。

到達目標

臨床実習において円滑に理学療法評価を遂行できるための基礎知識を得ることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 検査測定学概論
2. 形態測定の目的
3. 四肢長測定
4. 周径測定
5. 関節可動域測定の目的
6. 上肢の関節可動域測定
7. 下肢の関節可動域測定
8. 頸部・体幹の関節可動域測定
9. 徒手筋力検査の目的
10. 上肢の筋力検査
11. 下肢の筋力検査
12. 頸部・体幹の筋力検査
13. 感覚検査の目的と方法
14. 反射検査の目的と方法
15. まとめ

成績の評価

定期試験（90%）と小テスト（10%）で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、小テスト終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。理学療法検査技術を習得するにあたり、生理学・解剖学の知識が必要不可欠であるため、しっかりと復習しておくこと。

テキスト

「臨床理学療法評価法」（アイペック）
「運動器疾患の評価と理学療法」（アイペック）
「神経疾患の評価と理学療法」（アイペック）

参考資料

「新・徒手筋力検査法 原著第9版」（協同医書出版社）
「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」（南山堂）

オフィスアワー

火曜日・木曜日 12:10～13:00（文野）
水曜日 12:10～13:00（山崎）

研究室・授業用E-mail

4号館5階D513第1共同研究室 bunno@kansai.ac.jp（文野）
4号館5階D513第1共同研究室 w.yamazaki@kansai.ac.jp（山崎）

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2P140011 |
| 講義名 | 骨関節疾患理学療法学Ⅰ |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法治療学 |
| 科目ナンバリング | P2-0601 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 隆紀 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

吉田 隆紀(理学療法士)、山崎航(理学療法士)

目的

運動器疾患の、特に外傷や上肢疾患に対する理学療法評価や理学療法技術について学習する。基本的には、各関節における機能解剖学視点から疾患の特徴を学び、その疾患におけるリスク管理や理学療法の実技を踏まえ、講義を行う。

到達目標

骨折・捻挫・脱臼、及び肩関節における運動器疾患の病態と原因を把握できること、またこれらの評価及び治療を理解することを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 運動器疾患に対する理学療法の考え方①(吉田)
2. 運動器疾患に対する理学療法の考え方②(吉田)
3. 骨折に対する理学療法の基礎①(山崎)
4. 骨折に対する理学療法の基礎②(山崎)
5. 脱臼に対する理学療法の基礎(山崎)
6. 捻挫に対する理学療法の基礎(山崎)
7. 肩関節疾患 肩関節の機能解剖(山崎)
8. 肩関節疾患 肩関節周囲炎①(山崎)
9. 肩関節疾患 肩関節周囲炎②(山崎)
10. 肩関節疾患 腱板損傷・断裂後(山崎)
11. 肩関節疾患 肩関節周囲の骨折と脱臼①(山崎)
12. 肩関節疾患 肩関節周囲の骨折と脱臼②(山崎)
13. 肩関節疾患 肩関節周囲の骨折と脱臼③(山崎)
14. 肩関節疾患の理学療法評価（実技）(山崎)
15. 肩関節疾患の理学療法（実技）(山崎)

成績の評価

定期試験の結果により判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

肩関節における運動器疾患の理学療法評価を学習するにあたり、1年生で習った肩関節に関する解剖学や運動学を基本として展開するため、復習しておくこと。また、授業1コマにつき、0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「運動器疾患の評価と理学療法」（アイペック）

参考資料

「運動療法のための機能解剖学的触診技術 上肢 改訂第2版」（メジカルビュー社）

オフィスアワー

月・木曜日 12：10～13：10(吉田)

水曜日 12：10～13：10(山崎)

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D719研究室(吉田隆紀)

t.yoshida@kansai.ac.jp

4号館5階 D513第一共同研究室(山崎航)

w.yamazaki@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2P141011 |
| 講義名 | 骨関節疾患理学療法学Ⅱ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法治療学 |
| 科目ナンバリング | P2-0602 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 隆紀 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

吉田隆紀(理学療法士)

山崎 航(理学療法士)

目的

運動器疾患の特に下肢疾患に対しての理学療法評価や理学療法技術について学習する。基本的には、各関節における機能解剖学視点から疾患の特徴を学び、その疾患におけるリスク管理や理学療法の実技を踏まえ、授業を行う。

到達目標

運動器疾患の病態及び原因を把握して、評価及び治療への応用を理解することを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 肘関節疾患 肘関節の機能解剖
2. 肘関節周囲の骨折後の理学療法
3. 肘関節の脱臼後の理学療法
4. そのほか肘関節疾患の理学療法
5. 肘関節疾患の理学療法（実技）
6. 手関節疾患 手関節の機能解剖
7. 手関節周囲の骨折後の理学療法
8. その他の手関節疾患の理学療法
9. 手部・手指疾患の理学療法
10. 手関節疾患の理学療法（実技）
11. 股関節疾患 股関節の機能解剖
12. 股関節周囲の骨折後の理学療法
13. 股関節の脱臼後の理学療法
14. そのほか股関節疾患の理学療法
15. 股関節疾患の理学療法（実技）

成績の評価

定期試験の結果で判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

骨関節疾患の理学療法評価を学習するにあたり、1年生で習った解剖学や運動学を基本として展開するため、復習しておくこと。授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、積極的に予習と復習を行なうこと。

テキスト

「運動器疾患の評価と理学療法」(アイペック)

オフィスアワー

水曜日と金曜日以外の12:10~13:00 (吉田)

水曜日の12:10~13:00 (山崎)

研究室・授業用E-mail

4号館7階D719研究室 吉田隆紀 t.yoshida@kansai.ac.jp

4号館5階D513第1共同研究室 (山崎) ・ w.yamazaki@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P176011 |
| 講義名 | 心身医学 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0214 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 近藤 哲哉 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

郭 哲次

目的

心身医学は、患者を身体面だけでなく、心理面、社会面、論理面を含めて総合的、統合的に診ていこうとする医学です。すなわち一人ひとりの患者に対するbiopsychosocio-ethicalなアプローチが心身医学的ないし全人的医療の究極の目標です。心身医学としての学問体系が築かれたのは、1930～40年代で、米国における精神分析に端を発するとされています。歴史を顧みると、心身医学は神経症学から出発し、狭義の心身症学を経て、総合医学、全人的医療へと発展してきています。「臨床医学の基本としての心身医学」という観点は、このような動向を反映しています。

到達目標

心身医学の概念・歴史から始めて、現代ストレス社会における多様な心身症の病態、診断、治療、予後について正しい理解を深めることに重点をおいています。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 心身医学—概念と歴史— (郭)
2. 心身相関のメカニズム (郭)
3. 思春期の心身症 (摂食障害) (郭)
4. 中年期・更年期の心身症 (郭)
5. 慢性疼痛 (郭)
6. 癌と心身医学 (サイコオンコロジー) (郭)
7. 前半まとめ (郭)
8. 性格と疾患の関係 (近藤)
9. 面接法 (近藤)
10. 自律訓練法 (近藤)
11. 呼吸器・アレルギー系の心身症 (近藤)
12. 循環器系の心身症 (近藤)
13. 内分泌・代謝系の心身症 (近藤)
14. 消化器系の心身症 (近藤)
15. 神経・筋肉系の心身症、小児期の心身症 (近藤)

成績の評価

[1] (40)

郭担当分 講義中の試験 点満点

[2] 近藤担当分 4択問題の問題集を講義中に配ります。期末試験には、その選択肢を入れ換えたマークシート問題を出します。(50点満点)

[3] 近藤担当分 講義中に小テストなどを行い、学習への態度を評価することがあります。(10点満点)

以上を合計し、60点以上になれば合格です。追再試験は [2] のみ行います。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

正答を事務室または掲示板に掲示します。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

出欠を確認する時刻に遅刻や早退などで不在な場合、欠席として扱います。

テキスト

テキストは必ずしも購入しなくて結構です。

別途プリントを配布します。

参考資料

「心身医学標準テキスト第2版」 (医学書院)

「現代 心療内科学」 (永井書店)

オフィスアワー

木曜日 12:00～13:00頃、原則として事前予約が必要(郭)

月曜日 9:00～12:00(近藤)

研究室・授業用E-mail

診療研究棟4階403研究室 (郭)

診療研究棟3階303研究室 (近藤)

tkaku@kansai.ac.jp (郭)

kondo0724538409@kansai.ac.jp (近藤)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P181011 |
| 講義名 | 神経内科学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0212 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 若山 育郎 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

若山育郎（医師）

目的

神経疾患についての基礎知識を修得する

到達目標

神経疾患の概要を理解すること

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 神経内科で診る病気
2. パーキンソン病(臨床症状)
3. パーキンソン病(病因、検査)
4. 脊髄小脳変性症
5. 筋萎縮性側索硬化症
6. Guillain-Barre症候群、CMT病、Bell麻痺
7. 進行性筋ジストロフィー
8. 多発性筋炎、筋生検
9. 多発ニューロパチー
10. 脳血管障害(脳出血)
11. 脳血管障害(脳梗塞)
12. 認知症
13. 認知症の脳画像
14. CT,MRIの基礎
15. 高次脳機能障害

成績の評価

筆記試験により評価する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと

テキスト

特に指定しない

参考資料

特に指定しない

オフィスアワー

火曜、水曜 12:30-13:00

研究室・授業用E-mail

1号館205研究室
wakayama@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------------|
| 講義コード | 2P186011 |
| 講義名 | 人間発達学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 |
| 科目分類・分野名 | 人体の構造と機能及び心身の発達 |
| 科目ナンバリング | P2-0110 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 大歳 太郎 | 指定なし |
| 教員 | 東藤 真理奈 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

大歳太郎（作業療法士）

東藤真理奈（理学療法士）

目的

ひとのさまざまな発達段階を理解し、その関連性を把握し、臨床応用するための基礎知識を修得する。

到達目標

- 1 人間の行動を「発達」という視点から考えることができる。
- 2 人間発達の道筋に個人差があることを理解することができる。
- 3 人間の発達を支援するために必要なことがわかる。
- 4 関連する書籍や文献などを主体的に調べることができる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

- 1 生涯発達とは（大歳）
- 2 胎児期・新生児期の発達（大歳）
- 3 成長と発達（大歳）
- 4 運動機能の発達①（大歳）
- 5 運動機能の発達②（大歳）
- 6 運動機能の発達③（大歳）
- 7 手指機能・目と手の協調性の発達①（大歳）
- 8 手指機能・目と手の協調性の発達②（大歳）
- 9 ことば・コミュニケーションの発達（大歳）
- 10 社会性の発達①（大歳）
- 11 社会性の発達②（大歳）
- 12 社会性の発達③（大歳）
- 13 認知機能の発達（大歳）
- 14 発達検査（大歳）
- 15 まとめ（大歳）
- 16 新生児（東藤）
- 17 1～3ヶ月（東藤）
- 18 1～3ヶ月（東藤）

- 19 4～6ヶ月 (東藤)
- 20 4～6ヶ月 (東藤)
- 21 7～10ヶ月 (東藤)
- 22 7～10ヶ月 (東藤)
- 23 11～12ヶ月 (東藤)
- 24 11～12ヶ月 (東藤)
- 25 発達の検査① (東藤)
- 26 発達の検査② (東藤)
- 27 ADLの発達① (東藤)
- 28 ADLの発達② (東藤)
- 29 ADLの発達③ (東藤)
- 30 まとめ (東藤)

成績の評価

定期試験70%、小テスト20%、課題レポート10% (大歳)

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、模範解答を開示する。

自己学習

毎回の講義の振り返りを、1コマにつき2コマ (180分) 以上行う。

テキスト

「リハビリテーションのための人間発達学 第2版」 (メディカルプレス)

参考資料

「270動画でわかる赤ちゃんの発達地図」 (MCメディア出版)

オフィスアワー

月曜日12:30～13:00 (大歳)

水曜日12:30～13:10 (東藤)

研究室・授業用E-mail

4号館7F D716 研究室ootoshi@kansai.ac.jp (大歳)

4号館5F 第一共同研究室todo@kansai.ac.jp (東藤)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P199012 |
| 講義名 | 整形外科学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0211 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 教員 | ◎ 吉田 隆紀 | 指定なし |
| 非常勤 | 金本 成熙 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

金本成熙(整形外科医)

吉田隆紀(理学療法士)

目的

運動器疾患はADLの低下に直結する疾患であり、すでに世界一の高齢社会（今後もさらに進む）の日本においては、理学療法士が果たす役割は今後ますます増加するものと思われる。整形外科学は運動器疾患全般を保存的・外科的に治療する科であるが、理学療法士の協力無くしてはその治療が成り立たない。授業では整形外科学の基礎知識と各疾患の病態、治療法の理解を目的に講義する。

到達目標

運動器疾患の重要性を理解すること。整形外科学で扱う疾患の病態と治療法を理解の上、実際の理学療法の現場に役立つ知識を得ること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 画像診断と生化学的検査所見の見方
2. 骨折の保存療法と手術療法
3. 軟部組織損傷の保存療法と手術療法
4. 肩関節疾患の診断
5. 肩関節疾患の治療
6. 股関節疾患の診断
7. 股関節疾患の治療
8. 膝関節疾患の診断と治療
9. 足関節疾患の診断と治療
10. 頸椎・胸椎疾患の診断と治療
11. 腰椎疾患・側弯症の診断と治療
12. 関節リウマチ・末梢循環障害の診断と治療
13. 肘関節の疾患の評価と治療
14. 手関節・手・指の疾患の評価と治療
15. 手関節・手・指の疾患の評価と治療

成績の評価

レポート課題によって評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

模範レポートをレポート提出期日後に掲示する。

自己学習

半期15回の授業のみで整形外科領域を全て学ぶには時間的余裕はない。学習範囲は広いので、事前にシラバスに沿ってテキストで予習をしていないと授業内容は消化不良となる。予備知識として解剖学・生理学・病理学的基礎知識は十分身につけているものとして講義を進める。大学生であるので、テキストで予習が済んでいる前提で、講義は重要な項目のみ解説を行っていく。授業1コマにつき1コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

履修上の注意

本科目は必修科目であるため、積極的に予習と復習を行なうこと。

テキスト

「標準整形外科学 第13版」(医学書院)

参考資料

「整形外科疾患ビジュアルブック」(学研)

オフィスアワー

月曜日と木曜日の12:10~13:00まで

研究室・授業用E-mail

4号館D719号室(吉田) ・ t.yoshida@kansai.ac.jp

| | |
|----------|--------------|
| 講義コード | 2P260012 |
| 講義名 | 中国語 |
| 講義開講時期 | 通年 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 |
| 科目分類・分野名 | 言語とコミュニケーション |
| 科目ナンバリング | GE-1306.1 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 晃野 真季 | 指定なし |

目的

初めて中国語に触れる方を対象に学ぶ中国語の入門編です。中国語を習得するために、まず、基礎となる中国語表音ローマ字(ピンイン)の発音を徹底的に指導し、簡体字や機能語及び簡単な構文法を会話練習しながら、少しずつ身に付けるよう勉強して行きます。

到達目標

授業毎に個別に発音・会話の確認を行い、中国語の学習の基盤を作っておく事が目標です。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

人間力／コミュニケーション能力

授業計画

1. 中国語について、受講する際の注意点について
2. 第1課. 発音(1) 声調について
3. 第2課. 発音(2) 母音について
4. 発音・聞き取り練習
5. 第3課. 発音(3) 子音について
6. 有気音と無気音、発音・聞き取り練習
7. 第4課. 発音(4) 鼻母音(-nと-ng)・r化音について
8. 発音・聞き取り練習、練習問題を解き
9. 第1課～第4課 ピンインのルールをまとめ、習得度確認小テスト
10. ピンイン表でまとめ復習、リスニングテスト、前期末テストについて
11. 第5課. 出迎える
12. 復習、応用問題の練習、作文の準備
13. 第6課. 歓迎パーティー
14. 復習、応用問題の練習、作文の準備・発表
15. 前回続き、作文を発表する. 前期末まとめ練習問題提出
16. 前期授業をまとめ練習問題、作文の問題点について
前期授業内容をおさらいする
17. 第7課. タクシーに乗る
18. 確認小テスト、応用問題の練習
19. 応用問題の練習、前回続き
20. 第8課. 宿泊する
21. 確認小テスト、応用問題の練習
22. 応用問題の練習、前回続き
23. 第9課. 道を尋ねる
24. 確認小テスト、応用問題の練習

25. 応用問題の練習、前回続き
26. 第10課. ショッピングをする
27. 確認小テスト、応用問題の練習、レポートについて
28. 応用問題の練習、前回続き
29. 第11課. おしゃべりをする
30. 年度末まとめ練習問題提出、レポートについて、質問⇔回答

成績の評価

授業への取り組み度、期末試験および課題作り・発表、レポートの成績により総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

事前にテキスト内容を確認、本文を写し、CDを聴く。授業を受ける条件として、教科書を持参すること。

履修上の注意

出席状況は座席指定と出席カードで確認。授業中に如何なる理由でも退出した場合は出席カードを返却して頂く。20分以上の遅刻、遅刻³回・教科書忘れ¹回で欠席とする。私語は厳禁、携帯電話の使用、他の教科を学習した場合、授業を辞退したとする。毎課ごとに採点があり、欠席した場合も、必ずその課の習得度確認を受ける。授業毎に個別に発音・会話を確認する。発音、聞く、話せることを重点に平常点を付ける。詳細事項は開講時に説明する。

テキスト

「しゃべっていいとも 中国語」 (朝日出版社)

参考資料

必要時は授業中に指示する。

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P273011 |
| 講義名 | 動作分析学 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学 |
| 科目ナンバリング | P2-0406 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 東藤 真理奈 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

東藤真理奈〔理学療法士〕

福本 悠樹〔理学療法士〕

目的

本学が推奨しているトップダウン評価を行う上で、問題となる動作観察から機能障害を導くことが重要となる。本科目では、患者の基本動作を分析する際に必要となる健常者の基本動作の動作分析ができるようになることを目標とする。

到達目標

基本動作の動作記述が正確にできる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 立ち上がり①（屈曲相）
2. 立ち上がり②（屈曲相）
3. 立ち上がり③（伸展相）
4. 立ち上がり④（伸展相）
5. 立ち上がり⑤
6. 歩行①（側方移動）
7. 歩行②（立脚相）
8. 歩行③（立脚相）
9. 歩行④（遊脚相）
10. 歩行⑤（遊脚相）
11. 起き上がり①（～on elbow）
12. 起き上がり②
13. 起き上がり③
14. 動作観察応用①
15. 動作観察応用②

成績の評価

定期試験（85%）と課題成績（15%）で総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。解剖学と運動学の知識をよく復習しておくこと。

テキスト

「臨床理学療法評価法」（アイペック）

オフィスアワー

月曜日 12:30～13:10（東藤）

月曜日 12:30～13:10（福本）

研究室・授業用E-mail

4号館5階D513第1共同研究室

E-mail: todo@kansai.ac.jp（東藤）

fukumoto@kansai.ac.jp（福本）

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P276022 |
| 講義名 | 内科各論 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0208 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 別所 寛人 | 指定なし |
| 非常勤 | 西山 稔 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

別所寛人・西山 稔

目的

分子生物学や検査法の進歩により、内科疾患の各分野においても病因・病態の解明が急速に進んでいる。そのため、個々の疾患における病因・病態の理解は患者の全体像を把握するためにも重要である。本科目においては内科診断学で学習した知識を基に、内科系各分野（消化器疾患、肝臓・胆嚢・膵臓疾患、内分泌・代謝疾患、膠原病・アレルギー疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、血液疾患、感染症、腎泌尿路疾患）における病因・病態・診断法・治療法についての最新知識を習得することを目的とする。

到達目標

内科疾患でみられる各種の病態と症状を理解し、必要に応じて医師と適切に連携できる人材の育成を目標とする

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

- | | |
|------------------|------|
| 1. 消化器疾患① | (別所) |
| 2. 消化器疾患② | (別所) |
| 3. 消化器疾患③ | (別所) |
| 4. 消化器疾患④ | (別所) |
| 5. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患① | (別所) |
| 6. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患② | (別所) |
| 7. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患③ | (別所) |
| 8. 肝臓・胆嚢・膵臓疾患④ | (別所) |
| 9. 内分泌・代謝疾患① | (別所) |
| 10. 内分泌・代謝疾患② | (別所) |
| 11. 内分泌・代謝疾患③ | (別所) |
| 12. 内分泌・代謝疾患④ | (別所) |
| 13. 膠原病・アレルギー疾患① | (別所) |
| 14. 膠原病・アレルギー疾患② | (別所) |
| 15. 膠原病・アレルギー疾患③ | (別所) |
| 16. 呼吸器疾患① | (西山) |
| 17. 呼吸器疾患② | (西山) |

- | | |
|--------------|------|
| 18. 呼吸器疾患③ | (西山) |
| 19. 循環器疾患① | (西山) |
| 20. 循環器疾患② | (西山) |
| 21. 循環器疾患③ | (西山) |
| 22. 血液疾患① | (西山) |
| 23. 血液疾患② | (西山) |
| 24. 血液疾患③ | (西山) |
| 25. 感染症① | (西山) |
| 26. 感染症② | (西山) |
| 27. 感染症③ | (西山) |
| 28. 腎・泌尿器疾患① | (西山) |
| 29. 腎・泌尿器疾患② | (西山) |
| 30. 腎・泌尿器疾患③ | (西山) |

成績の評価

到達目標に対する到達度を定期試験により評価する。

自己学習

参考資料を授業で配布するので予習しておくこと。

授業1コマにつき0.5コマ (45分) 相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 PT OT 内科学」(医学書院)

参考資料

「わかりやすい内科学 第3版」(文光堂)

オフィスアワー

西山：火曜日12：00～13：30 (診療所診察室②)

別所：水曜日12：30～13：00 (診療所診察室②)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P279012 |
| 講義名 | 内科診断学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0207 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 別所 寛人 | 指定なし |
| 非常勤 | 西山 稔 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

別所寛人・西山 稔

目的

内科診断学では代表的な内科疾患の病態とそれに関連する症候・症状について解説する。本講義において習得した知識により、患者の病態の全体像を把握し、リハビリテーション実施に際しての正確な判断が行える能力を養うことを目的とする。

到達目標

内科疾患でみられる各種の病態と症状を理解し、必要に応じて医師と適切に連携できる人材の育成を目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 内科学とリハビリテーション (別所)
2. 症候・症状の把握①意識障害 (別所)
3. 症候・症状の把握②顔貌と体格 (別所)
4. 症候・症状の把握③運動失調と不随運動 (別所)
5. 症候・症状の把握④循環障害 (別所)
6. 身体各部の異常①眼、鼻、耳、口腔 (別所)
7. 身体各部の異常②胸部、腹部 (別所)
8. 身体各部の異常③四肢 (別所)
9. 疾患の概念と原因①遺伝・染色体異常 (別所)
10. 疾患の概念と原因②免疫異常 (関節リウマチ) (別所)
11. 疾患の概念と原因③内分泌・代謝異常 (糖尿病) (別所)
12. 疾患の概念と原因④内分泌・代謝異常 (痛風、骨粗鬆症) (別所)
13. 疾患の概念と原因⑤物理的・化学的侵襲 (火傷、凍傷、酸/アルカリ) (別所)
14. 疾患の概念と原因⑥生物学的侵襲 (食中毒、性感染症) (別所)
15. 疾患の概念と原因⑦中毒 (別所)
16. 循環障害① (西山)
17. 循環障害② (西山)
18. 循環障害③ (西山)
19. 呼吸障害① (西山)
20. 呼吸障害② (西山)

21. 呼吸障害③ (西山)
22. 造血異常① (西山)
23. 造血異常② (西山)
24. 造血異常③ (西山)
25. 感染① (西山)
26. 感染② (西山)
27. 感染③ (西山)
28. 腎・泌尿器異常① (西山)
29. 腎・泌尿器異常② (西山)
30. 腎・泌尿器異常③ (西山)

成績の評価

到達目標に対する到達度を筆記試験により評価する。

自己学習

参考資料を授業で配布するので予習しておくこと。

テキスト

「標準理学療法学・作業療法学 PT OT 内科学」(医学書院)

参考資料

「わかりやすい内科学 第3版」(文光堂) 井村裕夫編

オフィスアワー

西山：火曜日12：00～13：30 (診療所診察室②)

別所：水曜日12：30～13：00 (診療所診察室②)

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P281011 |
| 講義名 | 日常生活活動学 |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 基礎理学療法学 |
| 科目ナンバリング | P2-0405 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 米田 浩久 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

米田 浩久〔理学療法士〕

東藤真理奈〔理学療法士〕

目的

本科目では、日常生活活動の定義・分類・評価・介入について講義する。基本動作の理解と基本動作と各固有動作が連続することによって成立する身の回り動作の動作構造の把握を基本とする。

到達目標

日常生活活動の定義と動作構造をよく理解する。日常生活活動を障害する因子の階層性を把握し、ADLの評価と治療に反映できるように努める。特に評価については、種々の評価スケールの理解とともに、障害されている日常生活活動の動作構造を、トップダウン評価を用いて把握することができる能力の獲得を目指す。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

- 1.日常生活活動の概念
- 2.日常生活活動と国際分類
- 3.基本動作
- 4.身のまわり動作
- 5.コミュニケーション
- 6.生活関連動作
- 7.ADL評価の方法論とその目的
- 8.FIMとBIによる評価
- 9.自助具とADL支援機器
- 10.疾患別ADL(1)
- 11.疾患別ADL(2)
- 12.疾患別ADL(3)
- 13.疾患別ADL(4)
- 14.住宅改修
- 15.総括

成績の評価

定期試験の結果で判定する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の時間を時間をかけて、予習と復習を行うこと。特に、毎回の講義内容の復習を欠かさずおこない、基礎ゼミⅠにも反映される内容であることから、理解に充分努めること。また、配布するプリントは必ずファイリングし、来る実習や国家試験対策用の資料として保管すること。

テキスト

毎回の講義でプリントを配布する。

参考資料

「臨床理学療法評価法」（アイペック）

「理学療法学テキストⅣ 日常生活活動（ADL）第2版」（神陵文庫）

オフィスアワー

火曜日 12時15分～13時（米田）

水曜日 12時10分～17時（東藤）

研究室・授業用E-mail

4号館7階 D722研究室（米田）・yoneda@kansai.ac.jp

4号館5階 理学療法教員室（東藤）・todo@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-------------|
| 講義コード | 2P283011 |
| 講義名 | 脳血管障害理学療法学Ⅰ |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法治療学 |
| 科目ナンバリング | P2-0604 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 鈴木 俊明 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士]

目的

本科目では、脳血管障害患者に対する理学療法評価・技術を習得するために必要な病態について講義する。脳血管障害により生じる片麻痺の神経生理学的メカニズムと、片麻痺としての運動障害を講義する。具体的には、運動障害の要素である痙縮、連合反応、病的共同運動の理解と各々の関連性を解説する。運動障害を理解するうえで、筋緊張の理解は重要である。筋緊張評価について実技を含めて詳細に教授する。

到達目標

脳血管障害の病態、理学療法評価を理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 脳血管障害とは ー片麻痺についてー
2. 脳血管障害とは ー片麻痺についてー
3. 運動障害 ー痙縮、病的共同運動、連合反応ー
4. 運動障害 ー痙縮、病的共同運動、連合反応ー
5. 運動障害 ー筋緊張の概念ー
6. 運動障害 ー筋緊張検査1ー
7. 運動障害 ー筋緊張検査2ー
8. 運動障害 ー筋緊張検査3ー
9. 運動障害 ー筋緊張検査4ー
10. 運動障害 ー反射検査1ー
11. 運動障害 ー随意運動能力検査1ー
12. 運動障害 ー随意運動能力検査2ー
13. 運動障害と動作との関連性1
14. 運動障害と動作との関連性2
15. まとめ

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習をおこなうこと。1年生で勉強した解剖学、運動学、生理学の知識を再度勉強すること。

テキスト

「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」（神陵文庫）

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室

| | |
|----------|------------|
| 講義コード | 2P284011 |
| 講義名 | 脳血管障害理学療法Ⅱ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法治療学 |
| 科目ナンバリング | P2-0605 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 鈴木 俊明 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

鈴木 俊明[理学療法士]

目的

本科目では、脳血管障害患者に対する理学療法評価・技術を習得するために必要な病態について講義する。脳血管障害理学療法Ⅰの内容に関連して、本講義では脳血管障害により生じる感覚障害、高次機能障害に関する講義をおこなう。

次に、脳血管障害患者の動作分析では、動作分析学、評価学総論、評価学実習で習得したトップダウン評価の知識をもとに、詳細な評価ができるように講義する。

到達目標

脳血管障害理学療法Ⅰで習得した内容と本講義の内容から脳血管障害における理学療法評価について習得する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

- 1 感覚障害 ー表在感覚、深部感覚についてー 1
- 2 感覚障害 ー表在感覚、深部感覚についてー 2
- 3 感覚障害と動作との関係 1
- 4 感覚障害と動作との関係 2
- 5 高次脳機能障害 ー失行・失認・失語の病態と検査法ー 1
- 6 高次脳機能障害 ー失行・失認・失語の病態と検査法ー 2
- 7 高次脳機能障害 ー失行・失認・失語の病態と検査法ー 3
- 8 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 1
- 9 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 2
- 10 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 3
- 11 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 4
- 12 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 5
- 13 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 6
- 14 脳血管障害片麻痺患者の動作分析 7
- 15 まとめ

成績の評価

定期試験で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。基礎ゼミⅡ、脳血管障害理学療法学Ⅰの知識が必要となるため、復習して望むこと

テキスト

「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」（神陵文庫）

「神経疾患の評価と理学療法」（アイペック）

オフィスアワー

火曜日：12：30～13：00

研究室・授業用E-mail

4号館 7階 D724研究室

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P286011 |
| 講義名 | 皮膚科・感覚機能医学① |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0217 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 松中 成浩 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

平岡 政信

目的

（皮膚科学）目標に沿って鍼灸師として是非知っておかねばならない皮膚疾患にポイントを絞って講義を進めていく予定である。
（感覚機能医学）領域としては、耳科学、鼻科学、咽喉頭、気管、食道科学、更には頭頸部外科学等が含まれる。

到達目標

（皮膚科学）皮膚は最も目につきやすい人体最大の臓器であり、新生児期より老年期に至るまでの生理的变化と共に、自覚的にも他覚的にも早期からの病的異常所見の発見が最も容易な臓器である。特に鍼灸師は、体表の視診、触診により病変を把握する技術が必要とされるため、皮膚科的な知識は、きわめて重要である。また、鍼灸臨床においては、皮膚科的疾患の有無により鍼灸治療の適否も考慮せねばならない。
（感覚機能医学）医療従事者として必要な耳鼻咽喉科学の知識を習得せしめ、耳鼻咽喉科学を通して医療に対する考え方、接し方を理解させる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

- （皮膚科学）
- 1 乳幼児から高齢者まで皮膚表面には年齢、生活環境、職業などによる種々な生理的、病的所見があり、他の診療科に比べ俗称或いは社会的に知られた皮膚疾患も多い。出生児の母斑、乳幼児や小児の疾患、感染症、癬痒性疾患、良性や悪性の皮膚腫瘍、薬疹、老人の皮膚の所見など鍼灸治療の臨床実習時などに見いだす事の多い皮膚症状をスライドで供覧する。
 - 2 正常皮膚の構造と機能、皮疹の見方
 - 3 皮膚疾患の診断のための検査と治療。全身ならびに局所治療、光線療法、凍結療法、レーザー療法、皮膚外科
 - 4 接触皮膚炎、貨幣状皮膚炎、自家感作性皮膚炎、脂漏性皮膚炎
 - 5 アトピー性皮膚炎 ・紅斑症、血管炎 ・薬疹、蕁麻疹
 - 6 自己免疫疾患：エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、皮膚筋炎、：天疱瘡、類天疱瘡 ・角化異常症：尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、魚鱗癬 ・母斑、母斑症
 - 7 老人性皮膚疾患、皮膚良性腫瘍 ・皮膚前癌症、皮膚悪性腫瘍
 - 8 皮膚感染症：真菌、細菌、疥癬・皮膚感染症；ウイルス、性病、新薬とその効果
- （感覚機能医学）

- 1 耳鼻咽喉頭の臨床解剖、耳鼻咽喉頭の生理
- 2 耳鼻咽喉科領域の検査法
- 3 耳疾患各論
- 4 鼻疾患各論
- 5 咽喉頭疾患各論
- 6 気管・食道疾患各論
- 7 頭頸部外科学論

(以上は主たる項目であり、内容は適時変更することがある)

成績の評価

(皮膚科学) ミニレポート・筆記試験の総合評価。

(感覚機能医学) 定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

(皮膚科学) 定期試験、レポートの解説を実施する。

(感覚機能医学) 定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマ当たり0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと

テキスト

(皮膚科学) 「あたらしい皮膚科学」(中山書店)

(感覚機能医学) 「イラスト耳鼻咽喉科」(文光堂)

参考資料

(皮膚科学)

「Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine」(Mc Grow-NY)8thEd.、「Textbook of Dermatology」(Blackwell)7thEd.、「皮膚科診療カラーアトラス大系」(講談社)

(感覚機能医学)

「新耳鼻咽喉科学」(南山堂)

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P286012 |
| 講義名 | 皮膚科・感覚機能医学② |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0217 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 平岡 政信 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

平岡 政信（医師）・松中 成浩（医師）

目的

（皮膚科学）目標に沿って鍼灸師として是非知っておかねばならない皮膚疾患にポイントを絞って講義を進めていく予定である。

（感覚機能医学）領域としては、耳科学、鼻科学、咽喉頭、気管、食道科学、更には頭頸部外科学等が含まれる。

到達目標

（皮膚科学）皮膚は最も目につきやすい人体最大の臓器であり、新生児期より老年期に至るまでの生理的变化と共に、自覚的にも他覚的にも早期からの病的異常所見の発見が最も容易な臓器である。特に鍼灸師は、体表の視診、触診により病変を把握する技術が必要とされるため、皮膚科的な知識は、きわめて重要である。また、鍼灸臨床においては、皮膚科的疾患の有無により鍼灸治療の適否も考慮せねばならない。

（感覚機能医学）医療従事者として必要な耳鼻咽喉科学の知識を習得せしめ、耳鼻咽喉科学を通して医療に対する考え方、接し方を理解させる。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

（皮膚科学）

1 乳幼児から高齢者まで皮膚表面には年齢、生活環境、職業などによる種々な生理的、病的所見があり、他の診療科に比べ俗称或いは社会的に知られた皮膚疾患も多い。出生児の母斑、乳幼児や小児の疾患、感染症、癬痒性疾患、良性や悪性の皮膚腫瘍、薬疹、老人の皮膚の所見など鍼灸治療の臨床実習時などに見いだす事の多い皮膚症状をスライドで供覧する。

2 正常皮膚の構造と機能、皮疹の見方

3 皮膚疾患の診断のための検査と治療。全身ならびに局所治療、光線療法、凍結療法、レーザー療法、皮膚外科

4 接触皮膚炎、貨幣状皮膚炎、自家感作性皮膚炎、脂漏性皮膚炎

5 アトピー性皮膚炎 ・紅斑症、血管炎 ・薬疹、蕁麻疹

6 自己免疫疾患：エリテマトーデス、シェーグレン症候群、強皮症、皮膚筋炎、：天疱瘡、類天疱瘡 ・角化異常症：尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、魚鱗癬 ・母斑、母斑症

7 老人性皮膚疾患、皮膚良性腫瘍 ・皮膚前癌症、皮膚悪性腫瘍

8 皮膚感染症：真菌、細菌、疥癬・皮膚感染症；ウイルス、性病、新薬とその効果

（感覚機能医学）

- 1 耳鼻咽喉頭の臨床解剖、耳鼻咽喉頭の生理
- 2 耳鼻咽喉科領域の検査法
- 3 耳疾患各論
- 4 鼻疾患各論
- 5 咽喉頭疾患各論
- 6 気管・食道疾患各論
- 7 頭頸部外科学論

(以上は主たる項目であり、内容は適時変更することがある)

成績の評価

(皮膚科学) ミニレポート・筆記試験の総合評価。

(感覚機能医学) 定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

(皮膚科学) 定期試験、レポートの解説を実施する。

(感覚機能医学) 定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマ当たり0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと

テキスト

(皮膚科学) 「あたらしい皮膚科学」(中山書店)

(感覚機能医学) 「イラスト耳鼻咽喉科」(文光堂)

参考資料

(皮膚科学)

「Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine」(Mc Grow-NY)8thEd.、「Textbook of Dermatology」(Blackwell)7thEd.、「皮膚科診療カラーアトラス大系」(講談社)

(感覚機能医学)

「新耳鼻咽喉科学」(南山堂)

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P292011 |
| 講義名 | 評価学実習Ⅰ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 実習 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法評価学 |
| 科目ナンバリング | P2-0503 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 文野 住文 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

文野 住文〔理学療法士〕
 谷埜予士次〔理学療法士〕
 山崎 航〔理学療法士〕
 福本 悠樹〔理学療法士〕

目的

理学療法評価で行われる検査・測定について実技演習を行う。また、授業時間内に実技試験（OSCE）を行いながら検査・測定の技術習得度を確認する。本実習はキャリア科目であり、夏季に3日間の見学実習を行うことでモチベーションの向上も図る。

到達目標

臨床実習において円滑に理学療法評価を遂行できるための基礎知識を得て、検査・測定を正確に行えるようにすること。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／専門技術

授業計画

1. 形態測定概論（文野・山崎）
2. 肢長測定（文野・山崎）
3. 周径測定（文野・山崎）
4. 形態測定の実技試験（文野・山崎）
5. 関節可動域測定概論（文野・山崎）
6. 上肢の可動域測定（文野・山崎）
7. 下肢の可動域測定（文野・山崎）
8. 頸部・体幹の可動域測定（文野・山崎）
9. 関節可動域測定の実技試験（文野・山崎）
10. 徒手筋力検査測定概論（谷埜・山崎）
11. 上肢の筋力検査①（谷埜・山崎）
12. 上肢の筋力検査②（谷埜・山崎）
13. 下肢の筋力検査①（谷埜・山崎）
14. 下肢の筋力検査②（谷埜・山崎）
15. 頸部・体幹の筋力検査（谷埜・山崎）
16. 徒手筋力検査測定の実技試験（谷埜・山崎）
17. 反射・感覚検査概論（文野・福本）
18. 反射検査①（文野・福本）

19. 反射検査② (文野・福本)
20. 感覚検査① (文野・福本)
21. 感覚検査② (文野・福本)
22. 反射・感覚検査の実技試験 (文野・福本)
23. まとめ (文野・福本)

成績の評価

筆記試験 (20%)、実技試験 (70%)、夏季に行う見学実習のレポート (10%) も含めて総合的に評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後、レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

検査測定技術を習得するためにはかなりの練習が必要となるため、授業ではしっかりと技術の習得に努めること。また、授業時間外でも積極的に練習をすること。

テキスト

- 「臨床理学療法評価法」 (アイペック)
- 「運動器疾患の評価と理学療法」 (アイペック)
- 「神経疾患の評価と理学療法」 (アイペック)

参考資料

- 「新・徒手筋力検査法 原著第9版」 (協同医書出版社)
- 「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」 (南山堂)

オフィスアワー

- 火曜日・木曜日 12:10～13:00 (文野)
- 月曜日 12:15～13:00 (谷埜)
- 水曜日 12:10～13:00 (山崎)
- 月曜日・水曜日 12:10～13:00 (福本)

研究室・授業用E-mail

- 4号館5階D513第1共同研究室 bunno@kansai.ac.jp (文野)
- 4号館7階D723研究室 tanino@kansai.ac.jp (谷埜)
- 4号館5階D513第1共同研究室 w.yamazaki@kansai.ac.jp (山崎)
- 4号館5階D513第1共同研究室 fukumoto@kansai.ac.jp (福本)

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P295011 |
| 講義名 | 評価学総論Ⅱ |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法評価学 |
| 科目ナンバリング | P2-0502 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 文野 住文 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

文野 住文〔理学療法士〕

目的

評価学総論Ⅰの内容を受けて、理学療法評価の流れを学習する。具体的には動作観察・分析、関連図の作成から問題点の抽出、統合と解釈と目標設定、理学療法プログラムの立案について学習する。

到達目標

臨床実習において、円滑に理学療法評価を遂行できるための基礎知識を得ることを目標とする。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. トップダウン評価とボトムアップ評価①
2. トップダウン評価とボトムアップ評価②
3. 動作観察と分析①
4. 動作観察と分析②
5. 動作観察と分析③
6. 関連図の作成①
7. 関連図の作成②
8. 関連図の作成③
9. 関連図の作成④
10. 統合と解釈①
11. 統合と解釈②
12. 統合と解釈③
13. 目標設定
14. 理学療法プログラムの立案
15. まとめ

成績の評価

講義内で提示する症例についてのレポート課題で評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

レポート提出後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。「人体の機能および構造」、「基礎運動学」、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」、「評価学総論Ⅰ」の内容をしっかりと復習しておくこと。

テキスト

「臨床理学療法評価法」（アイペック）

参考資料

授業内で適宜紹介予定である。

オフィスアワー

火曜日・木曜日 12:10～13:00

研究室・授業用E-mail

研究室：4号館5階D513第1共同研究室

E-mail：bunno@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P297013 |
| 講義名 | 病因・病態学Ⅰ |
| 講義開講時期 | 前期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0204 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 伊藤 俊治 | 指定なし |

目的

疾患の発生と進行についての科学を病理学という。病因病態学とは病理学そのものである。本講義では人体の正常構造・機能がどのように異常を来し、疾患が発生していくかについて、正しい知識を身につけ科学的・体系的に理解することを目的とする。前期の講義では総論のうち、主に組織障害と修復、生体防御について概説する。

到達目標

基本的な身体の機能とその異常について科学的な説明が出来る。適応、炎症などの基本的な疾患のメカニズムを理解し説明できる。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 病理学の基礎
2. 組織の障害と適応
3. 組織の障害と適応
4. 組織の障害と適応
5. 組織の修復と再生
6. 組織の修復と再生
7. 炎症
8. 炎症
9. 炎症
10. 炎症
11. 免疫系とその異常
12. 免疫系とその異常
13. 免疫系とその異常
14. 感染症
15. 感染症

成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートなどを課し試験評点の10%を上限に加点する場合がある。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の予習と復習を行うこと。病理学を学ぶためには、生物学（生命のしくみ）、生化学（生命の化学）、人体の構造・機能などの知識が必須である。これらの講義の内容を復習・理解しておくこと。また、教科書の該当部分について、事前の予習を強く推奨する。

テキスト

標準理学療法学・作業療法学「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

参考資料

「ロビンズ基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。実験・研究で部屋にいない場合もあるので、メールで事前に連絡することをおすすめする。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 407研究室
itohshun@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P298023 |
| 講義名 | 病因・病態学Ⅱ |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 2 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0205 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|---------|------|
| 教員 | ◎ 伊藤 俊治 | 指定なし |

目的

前期の病因・病態学Ⅰと同様である。後期の講義では総論のうち、主に循環障害、先天性疾患と腫瘍について概説し、あわせて病理学各論について各組織における疾患の病因・病態を理学療法学に関連する疾患を中心に講義する。

到達目標

前期の病因病態学Ⅰと同様に、講義の範囲の基本的な疾患のメカニズムを理解するための知識を得る。また将来の医療従事者として、疾患の診断・治療・予防について自ら習得できるような基盤を身につける。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

- 1- 2.総論：病因・病態学Ⅰの復習
- 3- 4.総論：循環障害
- 5- 6.総論：腫瘍
- 7- 8.総論：腫瘍
- 9-10.総論：先天異常
- 11-12.総論：先天異常
- 13-14.各論：神経系
- 15-16.各論：運動器
- 17-18.各論：運動器
- 19-20.各論：循環器
- 21-22.各論：呼吸器
- 23-24.各論：消化器
- 25-26.各論：泌尿器
- 27-28.各論：その他
- 29-30.まとめ

*3回程度、非常勤講師による講義を行う場合がある

成績の評価

試験で評価するが、必要に応じてレポートなどを課し試験評点の10%を上限に加点する場合がある。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

定期試験終了後に模範解答を開示する。

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当相当の予習と復習を行うこと。前期の病因・病態学Ⅰの講義の内容を復習・理解しておくこと。また前期の病因・病態学Ⅰと同様、事前に教科書の該当部分について予習しておくことを強く推奨する。

テキスト

標準理学療法学・作業療法学「病理学」（医学書院）と配付資料を使用する。

参考資料

「ロビンズ基礎病理学」（廣川書店）（図書館にあります）

オフィスアワー

随時。金曜午後を除く。研究で部屋にいない場合もあるので、メールで連絡することをおすすめする。

研究室・授業用E-mail

診療・研究棟4F 407研究室
itohshun@kansai.ac.jp

| | |
|----------|-----------|
| 講義コード | 2P312011 |
| 講義名 | 物理療法学 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 理学療法治療学 |
| 科目ナンバリング | P2-0616 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 必修 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|----|----------|------|
| 教員 | ◎ 鬼形 周恵子 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

鬼形周恵子〔理学療法士〕

目的

理学療法には、運動療法と物理療法がある。そのなかの物理療法について学ぶ。物理療法の機器の種類、生理学的作用、適応疾患や禁忌などについて学ぶ。

到達目標

物理療法の機器について、どのようなものがあるか、どのような疾患に適応または禁忌なのかを理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

- 1.物理療法とは
- 2.温熱療法
- 3.温熱療法
- 4.温熱・寒冷療法
- 5.光線療法
- 6.牽引療法
- 7.牽引療法
- 8.水治療法
- 9.電気療法
- 10.電気療法
- 11.バイオフィードバック療法
- 12.物理療法のまとめ
- 13.物理療法の機器を用いての実習
- 14.物理療法の機器を用いての実習
- 15.物理療法の機器を用いての実習

成績の評価

定期試験で評価する

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する

自己学習

授業1コマにつき0.5コマ（45分）相当の機器の名称等の予習と復習を行うこと

参考資料

「運動器疾患の評価と理学療法」（アイペック）

「テキスト 物理療法学 基礎と臨床」（医歯薬出版）

オフィスアワー

火曜日 12：15～13：00

4号館5階D513第1共同研究室

研究室・授業用E-mail

4号館5階D513第1共同研究室室 onigata@kansai.ac.jp

| | |
|----------|---------------------|
| 講義コード | 2P330011 |
| 講義名 | 麻酔蘇生学 |
| 講義開講時期 | 後期 |
| 講義区分 | 講義 |
| 基準単位数 | 1 |
| 科目分類・分野名 | 疾病の障害の成り立ち及び回復過程の促進 |
| 科目ナンバリング | P2-0218 |
| 対象学科・学年 | 理学療法学科・2年 |
| 必修/選択 | 選択 |

担当教員

| 職種 | 氏名 | 所属 |
|-----|---------|------|
| 非常勤 | ◎ 喜馬 通博 | 指定なし |

担当教員（実務経験を有する資格）

喜馬 通博(医師)、榎葉 均、鬼形 周恵子(理学療法士)、山崎 航(理学療法士)

目的

本講義では、麻酔蘇生学の理解に欠かせない解剖学・生理学・呼吸器・循環器について必要な知識を学ぶとともに「救急医学・集中治療医学」の基本を学ぶ。さらに麻酔は痛みからの解放であるということから、痛みに対する理解を深め、理学療法との関わりについても講義する。

到達目標

麻酔蘇生、痛みに関する解剖学・生理学を理解する。また、これらと理学療法との関わりについて理解する。

授業計画表

ディプロマ・ポリシーに基づくコンピテンシー

専門知識／臨床推論力

授業計画

1. 麻酔とは①(喜馬担当)
2. 麻酔とは② (喜馬担当)
3. 呼吸と循環 (喜馬担当)
4. 救急蘇生 (喜馬担当)
5. 痛みの一般的性質 (榎葉担当)
6. 痛みの神経機構 (榎葉担当)
7. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法① (鬼形担当)
8. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法② (鬼形担当)
9. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法③ (鬼形担当)
10. 神経筋疾患における痛みに対する理学療法④ (鬼形担当)
11. 運動器疾患における痛みに対する理学療法① (山崎担当)
12. 運動器疾患における痛みに対する理学療法② (山崎担当)
13. 運動器疾患における痛みに対する理学療法③ (山崎担当)
14. 運動器疾患における痛みに対する理学療法④ (山崎担当)
15. まとめ (山崎担当)

成績の評価

定期試験にて評価する。

定期試験、レポート等に対するフィードバック

成績発表後、採点後の定期試験答案を開示する。

自己学習

授業で話した内容、資料、ノートの見直しをして理解を深めてほしい。授業1コマにつき0.5コマ(45分)相当の予習と復習を行うこと。

テキスト

特に指定しない。適宜資料を配布する。

参考資料

適宜紹介する。

オフィスアワー

| | |
|-------|-----------------|
| 火・水曜日 | 12:10～13:10(檜葉) |
| 火曜日 | 12:15～13:00(鬼形) |
| 水曜日 | 12:10～13:10(山崎) |

研究室・授業用E-mail

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 管理等2階206研究室(檜葉) | kashiba@kansai.ac.jp |
| 4号館5階D513第一共同研究室(鬼形) | onigata@kansai.ac.jp |
| 4号館5階D513第一共同研究室(山崎) | w.yamazaki@kansai.ac.jp |